成長企業のリーダーが語る

企業をネクストステージに導く“理想のオフィス”

昨年の10月21日、東京・大手町で「理想のオフィス研究会」（サンケイビル主催）が開催された。コクヨRDIセンターの齋藤敦子氏をファシリテーターに、成長企業のリーダーらを招いた座談会では、これからのオフィスビルについて活発な議論が交わされるとともに、サンケイビルが展開するミッドサイズオフィスビルの新ブランド「S-GATE（エスゲート）」への期待の声が寄せられた。

遠藤 健氏
株式会社サンケイビル
取締役常務執行役員

中野貴志氏
株式会社アイディーエス
代表取締役社長

佐藤 昌平氏
株式会社エクストリーム
代表取締役社長CEO

齋藤敦子氏
コクヨ株式会社
RDIセンター主幹研究員

先進のオフィスを語り尽くす座談会

働く人の可能性を刺激する、クリエーティブなオフィス

快適なオフィスがサービス向上に導く

齋藤　IT・ソフトウエア業界は製造業と異なり、働く人の頭脳や知恵そのものが生産手段といえます。その業界で成長企業のリーダーである佐藤さん、中野さんは、ユニークなオフィスづくりでも知られています。オフィスをどのように捉えているのでしょうか。

佐藤　インターネットが普及し始めた頃、仕事は社外で行われるようになり、オフィスはなくなっていくという予想がありました。しかし十数年を経た今、IT企業であっても人が集まるオフィスがなければ、生産性が上がらないことが分かってきたのです。特に当社はエンターテインメント系のソフトを中心に手がけていますので、クリエーターやエンジニアがわくわくでき、創造性を発揮できるオフィスを意識しています。

中野　競合がひしめくIT業界で、いかに他社と差別化していくか。当社は技術力や価格で競うより、サービス面で世界一のIT企業になることを目指しています。そのためには〝人〟が重要。ゆとりのあるオフィスづくりは顧客サービスに求められる想像力や感受性を高めるのに有効で、優秀な人材に長く働いてもらうことにもつながります。

齋藤　オフィスの質が、サービスの質に直結するとお考えなのですね。2社ともお伺いした際、エントランスからしっかりしたつくりで、ホスピタリティーにも感銘を受けました。

遠藤　当社も新しいビルに移転するとき、エントランスをホテルのようなイメージのしっかりとしたものにし、商談スペースも余裕のあるつくりにしました。その結果、来社するお客さまが2・5倍に増えました。社員が自信を持ってご案内できるオフィスであることが重要になっていると思います。

コミュニケーションの場として脚光

齋藤　米・シリコンバレーのIT企業では、オフィスでおいしい食事を出したりゲームコーナーを設けたりすることで社員のコミュニケーションを円滑にし、仕事の質向上を図っていることが知られています。

佐藤　当社のオフィスにも「クリエイターズLABO Co-CORE（ここあ）」というスペースを設けました。ゆったりくつろげる部屋に最新のパソコンやソフト、ゲームやコミック、参考書籍などを置き、社員同士の情報交換や技術力向上に生かせるようにしています。

中野　社員の絆を深めるという意味では、同じ場所で過ごす時間が重要です。当社は毎月「おにぎりの会」という全員での研修を行っています。文字通り「同じ釜の飯を食べる」という会で、食事をしながら会社の将来や新たなプロジェクトについて語り合うのです。

齋藤　Co-COREの計画や、おにぎりの会の運営には、若手社員の提案をどんどん取り入れたそうですね。

佐藤　経営者が決めたのは、こういうものを作ろうということだけ。実際のプランは、使う時間が長い現場の若手社員にやってもらうのがいいと考えました。

中野　新規事業のプランについても、社員から直接受け付けています。採用されると、提案した社員がその事業の責任者に抜てきされる仕組みです。

齋藤　お二方の会社では、一人ひとりの社員が能力を発揮するために、会社がその場を提供している。それを経営者がサポートしながら、組織全体が成長していくのですね。

ハード・ソフト両面からニーズに対応

注目される自由度の高さ

齋藤　Co-COREにはバーカウンターもありますが、給排水の工事など、ミッドサイズオフィスでは大変だったのでは。

佐藤　これまでのオフィスビルでは、レイアウトや設備を変更しづらい部分がありました。人が集まるオフィスにする方策は、入居者側が一生懸命考えますので、ビルの貸し手側にも力をお貸しいただけるとうれしい。

中野　我々のような中小企業は、日々会社のあり方が変わっていきます。それは、文字通り社員たちが作り上げているのです。オフィスも社員たちが考えて、自由に変更できると面白いですね。

遠藤　日本人は、既にある空間を我慢して使うことに慣れています。この殻を、誰かが破らなければなりません。例えばテナントさんから「オフィスの天井を開けてダクトが見えた状態にしてほしい」と要望があっても、従来の大家業の考え方では難しい部分がありました。

S-GATEは、借りた方に可能な限り自由に使っていただきたいと考えています。オフィスに集う方々に、殻を破って発想を広げていただく。そんな空間作りのために、私たちの側からも働きかけていきたいですね。それにオフィスのコーディネートやプランニング、デザイン、施工などを得意とする企業がグループ会社にありますので、オフィスづくりの幅広い提案ができます。

オフィスビルの新時代が始まる

齋藤　S-GATEはハードとしてのスペックも魅力的ですが、さまざまな付加サービスを考えていらっしゃるのですね。

遠藤　オフィスづくりにとどまらず、私たちのグループにはメディア企業から、リース、文房具の配送などを手がける企業もあります。将来的に、お客さまのさまざまな業務をアウトソーシングしていただき、営業をお手伝いできたら素晴らしいと思います。

齋藤　進化を続けるS-GATEが、ミッドサイズオフィスビルの概念を変えていきそうです。

佐藤　今後は、オフィスビルの入居企業同士で交流を深められれば、これまでにないコラボレーションができるのではないでしょうか。S-GATEが音頭を取って、ビルの〝コミュニティー〟を感じさせる取り組みが進むことにも期待したいですね。

中野　西洋風のスタイリッシュなビジネスが、ドライな人間関係につながる気がするなか、日本的な人情ある〝商売〟の良さをバックアップする仕組みがあると面白いですね。

齋藤　ビジネスとオフィスは切っても切り離せないものです。S-GATEのようにハード面が優れており、ソフト面でも貸し手と借り手がコラボレートできるオフィスビルは、ますます注目されていくでしょう。

サンケイビルのミッドサイズオフィスビル

「S-GATE」

成長企業のニーズに対応

今オフィスには、デザインや機能性、環境性が特に求められ、多様な人材が知的生産性を高められる、より戦略的な空間へのニーズが高まっている。このためオフィス性能にこだわり、快適性、安心・安全・環境性、BCP、ソフト面でのテナントサービスを充実させたのがS-GATEだ。

神田で第二号物件に着手

15年夏竣工の赤坂・第一号物件に続き、今般神田で第二号物件に着手、17年に竣工予定。東京都心5区のJRや地下鉄の主要駅近くを中心にシリーズ展開していく。サンケイビルは、S-GATEを通して企業の「事業力」「人材力」「ブランド力」を高め、ビジネスの成長をサポートしていく。

www.s-gate-office.com

《企画・制作》産経新聞社営業局　広告